

駐大阪フィリピン総領事が町を訪問

8月5日(金)、駐大阪フィリピン共和国総領事館のヴォルテール・デラクルス・マウリシオ総領事と関係者ら計5名が町長を表敬訪問しました。

今回の訪問は、「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮」が平成28年に町で開催されたことをきっかけに、町の津波対策の取組やサミットが行われた会場を視察することなどを目的として行われました。

役場本庁で当時のサミットの映像を視聴した後は、サミットの会場となった土佐西南大規模公園体育館や大方あかつき館の記念植樹、黒潮宣言、津波避難タワー、加茂神社の安政津波の碑を視察しながら、松本敏郎町長と意見を交わしました。

総領事は、「津波対策についてとても参考になった。避難タワー



サミットの記念石碑を見る総領事

や石碑などを見て、先見の明があり、町の準備もとても良いと感じた。防災対策を学べて貴重な経験になった」と話しました。

南郷小で防災キャンプ

7月20日(水)・21日(木)に、南郷小学校の5、6年生13名が、同校の校庭で1泊2日の防災キャンプを行いました。

同取組は、防災について学び、いざという時に自分たちで命を守ることができる力を身につけることを目的として令和2年に始まり、今年で3回目となります。

役場情報防災課の職員から地震をテーマにした講義があった後、子どもたちは校庭でテントの設営や夕食のカレーを作るため、薪を使い火を起こし、米を炊く体験をしました。夕食後には、地域住民とともに学校の裏手にある避難場所まで夜間避難訓練を行い、星空観察をして帰校。手作りのランタンを灯し、夜の学校探検の後、設営したテントで一晩を明かし、翌朝8時ごろ解散しました。



薪で火を起こし米を炊く児童ら

同校6年生の宗崎稀々さんは、「テントを建てることや火起こしは難しかったけど、みんなで協力してキャンプができた」と話しました。

入野海岸でサーフィン教室

8月5日(金)、南郷小学校の5、6年生12名が、入野海岸でサーフィン教室を行いました。

同教室は、ふるさとの魅力を体感すること、ふるさとへの貢献意識を育成することを目的とした「ふるさと・キャリア教育」の一環として行われました。

開始前にごみ拾いを行った後、町内でサーフィンショップを営む事業所が協力して講師を務め、砂浜でボードの立ち方や波の乗り方について子どもたちに指導を行い、その後、実際に海でのサーフィンに挑戦しました。

同校6年生の田波飛海^{となみ}さんは、「授業以外にもサーフィンの経験があるからすぐ乗れた。今日はあまり波に乗れなかったけど、楽しかった」と話しました。



サーフィンをする児童ら

があるからすぐ乗れた。今日はあまり波に乗れなかったけど、楽しかった」と話しました。

「カツオマイスター育成プログラム」がスタート

「ふるさと・キャリア教育」の一環として、平成30年から佐賀中学校3年生を対象に行われている「カツオマイスター育成プログラム」が今年度も始まりました。

今年度は12名が参加し、黒潮一番館のスタッフが講師を務め、生徒たちはカツオを捌くことから薫焼きまでの作業に挑戦します。

8月5日(金)に行われた第1回の講習では、講師から一連の作業を学び、交代でカツオを捌きました。

プログラムに参加している田村咲桜^{さくら}さんは、「家族の手伝いができるようなればと参加した。捌く時の力加減が難しい」と話し、門田真夢^{まゆ}さんは、「家族が一番館で働いており、興味があり参加した。練習して、早く上手に捌けるようになりたい」と話しました。

実技講習は毎週金曜日、全7回行われ、10月中旬には習得した技術を披露する発表会が行われる予定です。



カツオを捌く生徒ら

術を披露する発表会が行われる予定です。